

# 難民映画祭に携わって

私は第11回 UNHCR 難民映画祭にボランティアスタッフとして参加させていただき、会場内の案内や誘導などをお手伝いしました。

活動中は『ディーパンの闘い』『罨（わな）～被災地に生きる』

『女を修理する男』『ソニータ』の4本を鑑賞することができました。

そこには平和な国と言われている日本に暮らす私たちが普段出くわすことがない悲惨な場面が描かれており、衝撃を受けたと同時に自分の難民問題に関する知識の浅さを実感しました。

またそこで生きる人々の生き方、力強さに触れ、心の中にうまく言い表せない複雑な感情が生まれました。

また、活動中は難民映画祭のスタッフの方や他のボランティアスタッフの皆さんと交流する機会がありました。スタッフの方が、「難民問題を他人事と思わずに、もっと1人1人が問題意識を持ってほしい」とおっしゃっていたことがとても印象的でした。他のボランティアの皆さんからも参加のきっかけや将来についてのお話を聞くことができ、いい刺激を受けました。

今回はインターンシップの一環として UNHCR 難民映画祭に参加させていただきましたが、働くことにつながる体験ができただけでなく、1人の人としても感ずるところがあり貴重な体験となりました。これから、改めて難民問題について考え直し、広い視野を持って生きていきたいと強く感じました。(仙台青葉学院短期大学 インターン生)